

寄稿

Every Guitar tells a Story (part 3 ,last)

(Vintage Larrivee 個人輸入奮戦記)

大阪 西田隆郎 (Sparrows)

何度目の来日か覚えていませんが、ニュースステーションに PP&M が出演したことがありました。その折 Peter の持っていた古いギターを久米弘が「随分古い、汚いギターですね」みたいな話で笑っていたシーンがあったように覚えています。でもその響きは素晴らしく、今もずっとその印象は記憶に残っています。しかしこの古いギターが、後々これ程の時間とお金を費やすことになるとは思ってもいませんでした。

1978 年にアルバム「リュニオン」がリリースされました。その再結成に大きな期待をしていました。まずジャケットの Peter の容姿に「えーっそうだったのか」と唖然としました。それは良しとして、問題はそのサウンドでした。見事に期待を裏切ってくれました。当時の私としては曲の内容は良いのですが、サウンドはとても受け入れ難いものでした。それから数年、来日のステージ以外は、彼らの音楽に興味の薄れた期間が続きました。再び彼らの音楽を聴くようになったのは 10 年位前、ちょうど Sparrows を再結成しようとした頃からです。その「リュニオン」後にリリースされたアルバムはどれも素晴らしい内容でした。同時に VIDEO や DVD さらに You-Tube と映像が簡単に見れるようになった事もあり、空白の時間を取り戻すがごとく、またもや PP&M 病に取りつかれました。

1990 年の来日の時から Peter のギターがずっと気になっていましたが、古い Larrivee と Paul の LaPlante との絶妙のコンビネーションは、今までの彼らにはなかった印象深い響きでした。

そうして、Sparrows 再結成を機に、また Peter がこのギターをフロリダの空港で盗まれたという噂を機に (?) 私の Vintage Larrivee を探し求める旅が始まりました。

まずは、前回も紹介しました RHY ギター (ギターの輸入屋さん) にお問い合わせしました。99% あきらめる覚悟で、気長に待ってくださいとの事でした。そう言われると余計にファイトが湧いてくる悪い性癖が出始めました。

パソコンに向かい、**Vintage Larrivee** **検索** ボタンを何回クリックした事でしょう。2008 年 11 月 22 日、ついに検索の 10 ページ位に Randy R's Music Stuff というジョージア州に住む Larrivee コレクターのサイトを発見しました。彼は 30 本以上の Larrivee を所有しており、写真でそのコレクションを UP していました。彼は年も年なのでこれらの内、何本かは For Sale にしたいとのコ

メントがあり、その中に「Larrivee L09 vintage1974 Indianrosewood guitar \$2200」があったのです！

その時期、タイミング良く息子がオーストラリアから戻ってきており彼の力を借りながら、いよいよ個人貿易実務がはじまりました。まずはもう Sold ではないかという確認からでした。

まずこんな軽いメールのやり取りから始まりました

11/23/2008

「Subject : About Larrivee L09 1974 ,

Hello Randy, I saw your webpages of Larrivee collection and I've found her, at last. For I've been looking for her for several years.

I've been a fan of PP&M for over 40 years, and she is similar to Peter's one (stolen but found on ebay) . . .

Hope you still hold her . . .」

11/23/2008

「Hello Takao Nishida , Yes the 1974 Larrivee is still available. I will reply to you with additional information about the condition . . .」

この取引について、相手に伝えなかったこと事は、僕は Trader でも Collector でもなく PP&M の音楽が大好きなプレイヤーだと言う事でした。余程ひどいコンディションでない限り、価格のネゴシエーションに興味はありませんという事を彼に理解してもらうことでした。

彼の webpage には「I believe they are priced fairly, but I am open to discussion . . .」とありましたが、

「I am not interest in trade, I am just a player who loves acoustic guitar and Peter Paul & Mary」と伝えました。

もちろんネットで楽器を購入することは非常にリスクのある事と重々分かっていたのですが、もう手遅れで「恋は盲目」状態でした。

IT 社会は昔には考えられなかったような夢を叶えてくれます。お互いのホームページを紹介することで多くの情報を交換できます。とくにギターの色やお互いの音楽の趣味なども伝わります。StreetView ではお互いの住んでいる町や家まで確認出来てしまいます。

彼の提供してくれた情報は、トップにこんな傷があるけど大丈夫か？とかフレットの設定が低めでこのポジションだと少し 2 弦がこんな感じでビビるけど大丈夫？とか写真と音の両方で、非常に丁寧で親切なものでした。色々細かいやり取りする中で相手の誠実さや思いがその端々に伝わり、まるで昔からの音楽仲間の会話のようなやり取りでした。その過程でお互いの信頼関係が出来て

いました。
ということで、最後の問題は決済と SHIPPING でした。
決済については彼も日本との取引は初めてで Paypal, Check, Money Order 等
確実な方法を色々とアドヴァイスしてくれました。結局、国際郵便為替
(International Money Order) を組み \$2,331 (送料保険料込み) を追跡可能な
EMS で送ることにしました。数日後、無事彼の手許に届きましたが、
彼の小さな町の銀行ではこんな見たことないって感じで、現金化に 4 日も費
やしてしまいました。

12/12/2008

「Hello Takao, Your Larrivee guitar was shipped today via US Post Office
... delivery is expected to be in about 1 week.」

そして、2008 年 12 月 24 日まさにクリスマスイブに待ちに待ったクリスマス
プレゼントが届きました。ラルビー正規の SHIPPING ボックスに完璧な梱包で
送られてきました。彼がサンタクロースに思えました。

12/24/2008

「Hello, Randy, the Santa Claus, I've just received big X'mas present!
and I have to say thanks to reindeer and sleigh, everything is perfect.
Tonight I'm going to sleep with my Larrivee!
Merry X'mas and thank you again!」

このプレゼントには、さらにお楽しみのおまけが付いてきました、ラベルに
Owner's name が手書きで Bruce C???? と手書きされていました。???? の部分は
多分次の所有者の名前が Pritchard と上書きされていて元の字が読み取り難い
のですが、ひょっとして Bruce Cockburn? だとしたら? (彼は 60 年代 70 年
代に活躍したカナダのシンガーソングライターでデビュー当時からずっと
Jean Larrivee との深い親交があり、中川イサトも影響を受けた名ギタリストで
もあります) 真偽の確認にはあまり深入りせずに、これはそう言う事にしてお
こうと思います。

ということで私の個人輸入は無事完結しました。
そのままだでも十分ステージで使える状態でしたが数か所の調整を大阪の実力リ
ペアマン 上岸裕君にお願いしました (彼は石川鷹彦や森山良子のギターを調整
しています。また PP&M も大好きで、レインボートゥリーの重田君のベースや
Sparrows の関西での Dick 役もお願いしています)。

デザイン的にはヘッドがエボニーであったものをローズウッドに変更そして
フレットボードにあるイニシャルを彫り込むための MOP Block をはずしまし

た。

機能的にはフレットボードに少しアールを付け、フレットを打ちかえました。ナットとサドルを取り換え、弦高を少し上げました。

このギターの仕様と特徴ですが、シリアルナンバーは 2812、ラベルには Jean Claude Larrivee と製作年 74 が手書きされています。いわゆる L-body ですが、この当時はまだ L モデルというシリーズ名はなかったようです。サイド、バックは柎目のインデアンローズウッドでトップはシダーに透明のピックガードが貼られています。サウンドホールは今の L モデルのようラージホールではなく小さめです。指盤、ブリッジはエボニー、チューナーはグローバー 102G ロトマチックでオリジナルのもののようなようです。ポジションマークは鳥の羽ばたきをモチーフにしたようなインレイになっています。ネックはかまぼこ型の幅広やや太めです。弦のテンションは高く、音質は固い乾いた響きです。低音はこもらずに前にジャーンと出る感じで高音はシャリーンと響きます。音量も十分ありますが、弾き方によっては少しバシャつく感じになってしまいます。やはりフィンガーピッキングもストロークもピーターのようにサムピックでしっかり強く弾く必要があります。ちなみにマーチン D28 '67 とスケールの長さ（ナットからサドルまで）を比べて見ましたが 64.5 センチと 65.4 センチと約 1 センチも長くなっています。テンションの高さや音の固さはこの違いからくるようです。

かくして、終のギターを得て、私の長いギター遍歴に終止符が打たれました。そして私の「Every Guitar tells a story」は Part3 を持って完結しました。拙稿にお付き合いをいただきありがとうございました。

もし Part4 を書くとすれば、あり得ない事ですが Peter のギター(*)を「ebay auction」で落札した時でしょう(笑)

以上

(*) 蛇足ですが Peter の Old Larrivee について面白情報を紹介します

1. 71 年製 (PP&M HP で紹介されています) 他に 73 年製という説もありますが Peter は 73 年から使い始めたことがその根拠かも知れません)
2. Jean Larrivee が最初に作製したスチール弦のギターです。
彼は盗難に同情し Peter に新しいギターをプレゼントしたとのこと。
3. Peter はこのギターに G.B という愛称をつけました。
「Gracious Boomerang」5 年間の行方不明から舞い戻ってきたことから、さしずめ「やれやれ(ホッとして)ブーメラン」といった意味でしょうか。

★西田さん所有の Vintage Larrivee の写真は次ページ

